

保育参観の視点

秋田県教育庁幼保推進課

○基本的な考え方

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた教育・保育の実践

- ①乳幼児期にふさわしい生活の展開
- ②生活や遊びを通しての総合的な指導
- ③一人一人の発達の特性に合った指導（発達に必要な経験の保障）

○保育参観の視点

1 衛生・安全

【養護的視点からの配慮】

- ・乳幼児の生命の保持のため、発達の過程の理解の下、安心、安全が意識された保育室等である。
- ・季節や時間帯等に応じて、乳幼児にとって過ごしやすい環境が保障されている。

【教育的視点からの配慮】

- ・乳幼児の生活リズムが配慮され、発達の過程や一人一人の育ちが意識されている。
- ・健康、安全な生活に必要な基本的な生活習慣や態度を、主体的に身に付けていくことができる環境の構成及び適切な援助が行われている。

2 乳幼児の姿

- ・乳幼児は生活全般にわたって心地よい居場所が保障され、安心して過ごしている。
- ・乳幼児は様々な体験や保育者との関わりを通して自己肯定感や自己有用感を味わっている。

【3歳未満児】

- ・乳幼児は、保育者に受容的に受け止められ、安心感や安定感を得て、自ら興味・関心をもったことに積極的に向かっている。

【3歳以上児】

- ・幼児は、ものやこととの関わりを通して、自己発揮し、友達と関わりを広げたり、深めたりしている。

3 環境の構成

- ・一人一人の主体性を尊重し、子どもと共に環境を構成しようとしている。
- ・乳幼児の生活や遊びに向かう姿を柔軟に受け止め、環境を再構成している。

4 保育者の関わり

- ・一人一人の心の育ちや意欲的に取り組もうとする姿を受け止め、内面に寄り添った関わりをしている。
- ・保育のねらいを意識し、乳幼児が生活や遊びにおける充実感、満足感等を得られるように関わっている。

5 計画及び指導案

- ・園の教育・保育目標及び乳幼児の実態を踏まえ、長期的・短期的な見通しの中で、育てたい乳幼児の姿を明らかにしている。
- ・長期の指導計画との一貫性を踏まえ、発達に必要な経験・内容を指導案に明らかにしている。
- ・乳幼児の実態を踏まえ、保育のねらいに基づいた環境の構成や保育者の関わりについて具体的に示している。
- ・ねらいと評価の観点と保育の実際（環境の構成及び保育者の関わり）について、整合性が図られている。